

詩篇 96 神に栄光を帰する行為としての共同礼拝

本日より、共同礼拝に関する短いシリーズを始めます。6つの異なる詩篇の箇所を取り上げ、VBSの週はお休みしますが、七週間にわたってこのシリーズを進めていきます。そして、それぞれの詩篇の箇所から礼拝のいろいろな側面を明らかにすることで、私たちが毎週、共同礼拝を行うことの意義について考えていきます。ここで「共同礼拝」という用語を使うとき、一部の方にはその定義をお伝えする必要があるかもしれません。私は9Marksが使っているシンプルな定義が好きです。それによれば、**共同礼拝とは、聖書で命じられ、例示された形式や要素を通じて、共に神を賛美する会衆の行為**と定義されています。今日、最初に見る詩篇は詩篇96篇です。詩篇96篇は、著者や目的について語る前書きがない詩篇の一つです。単に神への賛美の賛歌であり、その焦点は神の栄光にあります。詩篇96篇は、集まって礼拝する教会として、神を崇拜することの意味を学ぶためには、完璧な箇所です。実際、私たちの教会のビジョンステートメントも、神に栄光を帰すことが、YIBCで成し遂げようとしているすべてのことの最初で最高の優先事項であると述べています。**私たちは、言語や文化の如何にかかわらず、互いに愛をもって仕え合い、一致し、祈り心をもち、聖書をとおしてキリストの弟子を整えることにより、また、イエス・キリストを信じる者および新しい教会を生み出すことによって、神の栄光を現す教会として存在する。**それでは、詩篇96篇に目を向け、私たちの礼拝が、神に栄光を帰す行為であることの意味を学びましょう。ではまず1-3節を読んでいきましょう。

¹新しい歌を主に歌え。全地よ主に歌え。²主に歌え。御名をほめたたえよ。日から日へと御救いの良い知らせを告げよ。³主の栄光を国々の間で語り告げよ。その奇しいみわざをあらゆる民の間で。神の栄光をたたえる詩篇が歌で始まることは偶然ではなく、むしろ重要なことです。歌うことは礼拝の全てではありませんし、礼拝を単に音楽の部分だけと考えるのも間違いですが、しかし、**共同礼拝において私たちは声を上げて、神に栄光を帰していることもまた事実なのです。**ここで焦点が当てられているのは歌うことだけではありません。聖霊は詩篇を通して、「**主に歌え。……御救いの良い知らせを告げよ。主の栄光を国々の間で語り告げよ。**」と言います。だからこそ、私たちは声を使って歌うだけでなく、声を使って聖書と福音の真理を述べる教理問答を朗読することで、救いの事実を告げてもいるのです。言い換えれば、私たちの声の簡単な使用によって、神の救いを語っているのです！福音を繰り返し述べることは、神の栄光を宣言する重要な行為です。宇宙を創造し、全ての人類を創造した神が、時間が始まる前から反逆的な人類を罪から救う救い主を提供する計画を立てたという事実は、私たち神の民にとって神に栄光を帰す、第一の理由なのです。

もし今日礼拝に参加されている方で、まだイエス・キリストをあなたの主と救い主として受け入れていない方がいらっしゃれば、ローマ人への手紙3:23に見られる神の言葉の真理を聞いていただきたいと思います。そこには、「**²³すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**」と書かれています。教理問答や讃美歌、説教を通して、あなたの犯した罪によって、あなたは神の怒りの下にあることを知っていただきたいのです。ヨハネの福音書3:36ははっきりと次のように述べています。**³⁶御子を信じる者は永遠のいのちを持っているが、御子に聞き従わない者はいのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。**しかし、私たちが神に栄光を帰すために集う理由は、福音が本当に良い知らせだからです。神は私たちがまだ神の怒りの下にある時でさえ愛してくださり、救い主を送り、その罪から救い出す道を提供してくださったのです。ヨハネの福音書3:16にはこう記されています。「**¹⁶神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**」しかし、この救いのメッセージはまだキリストを信じていない者だけのためにあるわけではありません。ここに集まり、キリストの体である教会を形成する私たちも、また、「神の救い」を知らない人たちに伝えられるように、このメッセージを定期的に思い出す必要があります。神の愛とイエス・キリストを通して示された恵みを思い起こす時、私たちは神を礼拝する他に応答する方法を見つけることができません。福音を繰り返し聞くことによって、私たちは、神が私たちのた

めになされたことを深く感謝し、私たちに、礼拝と神に栄光を帰するために讃えるエネルギーを与えてくれます。

もちろん、私たちが集まって礼拝する中で、その（神に栄光を帰する）主要な方法の一つが歌を歌うことなのです。それは、この箇所明らかに示されています。ですから、私たちの歌声は、福音、すべての福音を宣べ伝えるべきです。私たちの音楽は、神の愛だけでなく、私たちの罪深さ、神のその罪に対する怒りさえも明らかにすべきなのです。私たちは、例えば「義認」のような聖書のテーマを理解するのに役立つ歌を歌うべきです。歌は、説教では明らかにできないような真理を、私たちに記憶させる手助けとなることがあります。皆さんは、共同礼拝で聞いたり歌ったりした歌が、神に関する真理について思い出させてくれたという経験を持っているのでしょうか？何かを励まされたり、慰められたり、時には罪の認識を促されたりすることがありますか？多くの人は、聖書の一節よりも、はるかに多くの歌を記憶しています。ですから、共同礼拝の中で音楽をどのように扱うかは、教会としてその歌の力を日常生活に取り入れる手助けとなります。この聖書箇所が、「**新しい歌を主に歌え**」という言葉で始まっていることに注目してください。これは、最新の賛美歌だけを歌うべきだという意味ではありません。私たちが（共同礼拝で）歌う歌は、私たちの時代と文化に適した、共感できる音楽であるべきだという意味です。このように解釈すると、非常に広範な音楽を含むこととなります。何百年も前の歌でも、現代の基準で歌いやすく、私たちが理解できる歌詞を持った音楽もあります。その意味では、それらもまだ新しい歌です。ですから、私たちは古いスタイルと新しいスタイルが混ざった音楽を使いますが、最も重要なことは、平均的な人が歌いやすい音楽であるべきだという点です。キリスト教の歌にも、キリスト教の歌ではない歌の中にも、共同礼拝で歌うことを想定された歌の中にも、私たちが聴くことは楽しめるものの、平均的な人には基本的に歌えないものがたくさんあります。そのような歌を共同礼拝で使用するのは避けるべきです。しかし、礼拝が会衆全体を巻き込むものであるという話題については、後で別の説教で取り上げます。今日は、歌うことについてのメッセージですので、歌詞を通して聖書に基づいた福音を明確な方法で宣言することに加えて、私たちがその歌を学ぶ、あるいは覚えることの大切さを理解していただきたいと思います。文字通り、この世には何千もの賛美歌や歌があり、それらの歌ひとつひとつには神を敬う深いメッセージと歌詞が含まれているので、人々を忠実に神の栄光へと導いていくことができます。しかし、私たちの心はそのうちのいくつしか覚えられません。したがって、私たちの目標の一つは、礼拝で使用する歌を何度も歌うことによって、実際にそれらを覚えられるようにすることです。皆さんは気づいていないかもしれませんが、YIBCにはおおよそ120曲の歌のリストがあり、それをローテーションで使用しています。時折、そのリストから一曲を除き、別の曲を追加したりはしていますが。これは実際の本人のインタビューからは確認できていませんが、何百もの賛美歌の作者であるキース・グティが、彼の教会では50曲のローテーションしか使用していないとポッドキャストで誰かが言っていたのを聞いたことがあります。

もちろん、神の栄光を宣言する歌について考えるとき、それは私たちがどのように歌うかも考えることにつながります。私たちが目指すのは、前で歌うリーダーたちではなく、神を崇めることです。YIBCのミュージシャンや歌手は皆、非常に素晴らしいミュージシャンですが、彼らが礼拝をリードするとき、自分たちや自分たちの能力に焦点を当てていない点に注目してください。ギタリストのマーク・パイサノさんは彼の才能を使って驚かせるようなギターリフを弾くことができますし、ミギワさんやマイコさんもピアノでその才能の凄さを示すことができます。他のすべてのミュージシャンについても同様のことが言えます。しかし、彼らは意図的に自分たちの才能を使って、会衆がミュージシャンではなく、歌っている言葉に集中できるようにしています。教会の音楽が人間の技術を賛美するものであるなら、それは礼拝ではありません。残念ながら、特定のアーティストや教会と結びついた一部の歌は、神の栄光を損なう可能性があります。もし私たちが礼拝の中でそれらの教会やパフォーマーに注目を集めることで、彼らが神の言葉に反する教をを広めているならば、それらを礼拝の中で使用してはいけません。皆さんの中には、いくつかの非常に大きくてよく知られたメガチャーチの音楽会社の歌を、私たちの礼拝で使

用していないことに気づいている方もいらっしゃるでしょう。確かにこれらの曲が私たちが情熱的に神を賛美する礼拝へと導くこともあるかもしれませんが、しかし、これらの曲は、その背後にあるミニストリーとの結びつきが非常に強いため、これらの曲を歌うことで彼らのミニストリーやその神学に賛同していると見なされる可能性があるため、YIBCの礼拝では避けています。多くの教会や牧師がこの意見に異議を唱えていますし、この教会の一部の皆さんも同意しないかもしれません。しかし、長老たちは教会の教えを慎重に守る責任があります。ですから、歌とそれらが表すすべては教会において深い教えを提供するので、私たちは共同礼拝で使用する歌を選ぶ際に、神の栄光を損なうことなく最善のものを選ぶように努めなければなりません。

ここまで、歌を歌うことについて長く述べてきましたが、主な焦点は私たちの声を使って神を礼拝することでした。では、そもそも、なぜ私たちはこのように声を使うべきなのでしょう。もちろん、それは命じられているからですが、詩篇の作者は4-6節で、神が私たちの礼拝において栄光を受けるに値する2つの驚くべき理由を示しています。⁴「まことに主は大いなる方 大いに賛美される方。すべての神々にまさって恐れられる方だ。」⁵「まことにどの民の神々も みな偽りだ。しかし主は天をお造りになった。」⁶「威厳と威光は御前にあり 力と輝きは主の聖所にある。」この地球上のすべての人々が何かを礼拝しています（信じているのです）。無神論者を自称する人たちでさえ、何かを礼拝しています。私たちの文化では、寺院や神社、そしてしばしば神と呼ばれる霊的存在を具現化した銅像など、たくさんの証拠を見ることができます。しかし、見えることのない他の「神々」も存在します。それは、教育やお金、政治的権力、性、エンターテインメントなどです。人々が心と人生を捧げる多くのもの、それらはすべて偽りの神々です。しかし、まず理解しなければならないのは、聖書の神がこれらすべてのものの上にある、それらよりも素晴らしいということです。神は素晴らしい方です！私たちは、この言葉（英語ではGreat、日本語では「素晴らしい」）を、簡単に使います。例えば、「素晴らしい試合だった」「素晴らしい食事だった」など。しかし、神は私たちの人間の理解を超えたスケールで本当に偉大で、素晴らしいお方なのです。神の素晴らしさ、偉大さは非常に広大です。私たちが見たり経験したりするすべてのものが、神の創造的な行為によってのみ存在しているのですから、地上で私たちの崇拜と注意を引くもの、（偽りの神）全てと比べて、聖書の神は優れているのです。私たちが神のみに栄光を帰するふたつ目の理由は、神が天を創造したからです。なぜ天と地ではなく天と言うのでしょうか？それは、天が地上と私たちが探索できる全宇宙を含むからです。もちろん、これらの言葉が書かれた当時よりも今でははるかに多くのことを探索できています。それでもなお、私たちが宇宙の広大さの中で探索できるすべてのものは、神の前では、まるで画家が自分の望む通りに絵を描くことができるキャンバスのように、神の前にただ座しているに過ぎません。これが究極の力であり、私たちが周囲の世界や宇宙を見るとき、それは神の力と共にその美しさを示していることに気づくべきなのです。このことだけをとっても、私たちは礼拝で、神に栄光を帰すべきなのです。

しかし、私たちは声を上げて神を賛美するだけでなく、詩篇の作者は、捧げ物をすることも神に栄光を帰する私たちの共同礼拝の一部であると述べています。詩篇7-9節を読んでいきましょう。⁷「もろもろの民の諸族よ 主に帰せよ。栄光と力を主に帰せよ。」⁸「御名の栄光を主に帰せよ。ささげ物を携えて 主の大庭に入れ。」⁹「聖なる装いをして 主にひれ伏せ。全地よ 主の御前におののけ。」ここで、捧げ物について言及しているのは、「ささげ物を携えて 主の大庭に入れ。」という一箇所のみです。これは私たちが考える礼拝での捧げ物のことです。しかし、(7節で使われている)「帰せよ」という言葉も、「与える」という意味で使われています。しかし、詩篇の作者が単純に「(捧げ物を) 与えよ」と言わない理由があります。この「帰せよ」という言葉自体は、『さあ、さあ、行きましょう』というような意味になります。つまり、神に栄光を捧げる行為に参加するようにという強い呼びかけなのです。「さあ、神に栄光と力を捧げよう…神が受けるにふさわしい全ての栄光を捧げよう！」と言っているのです。そして、その礼拝の一部として捧げ物をするのが含まれます。この後の学びでは、捧げることに焦点を当てるために詩篇112を見ていきますが、このシリーズの始めにまず指摘しておきたいことがあります。それは、聖書全体を通して、礼拝が捧げ

ることと直接、結びついているという事実です。私はこれを十分にメッセージの中で言っていないので、おそらく過小評価していると思います。しかし、私たちの礼拝の一部には、神への献金と捧げ物が含まれます。そして、それは神社などで「神々」からの幸運を求めるために、100円や500円硬貨を投げるような捧げ物とは全く異なったものなのです。私たちは、神が私たちに与えてくださった祝福の中から、礼拝と感謝をもって神にお返しするために捧げ物をするのです。私たちが持っているものすべては、神の偉大さと栄光によるものであることを認識するために、捧げ物をするのです。宇宙を創造された神の前に来るのに、何も持たずに来ることはできません。私たちは、行動と言葉の両方で神がどのように素晴らしい価値を持っているかを表現するために、捧げ物を持って神の前に来るのです。

しかし、最後にこの詩篇は警告の言葉で終わります。この箇所は、今日読んだ詩篇の他の部分と、何の繋がりもないように見えるかもしれませんが、これは私たちに、**神の栄光を宣べ伝えることには、神の裁きの警告を含む福音の全てが含まれていることを示しています。**10—13節を見てください。¹⁰国々の間で言え。「主は王である。まことに世界は堅く据えられ揺るがない。主は公正をもって諸国の民をさばかれる。」¹¹天は喜び 地は小躍りし 海とそこに満ちているものは 鳴りとどろけ。¹²野とそこにあるものはみな 喜び躍れ。そのとき 森の木々もみな喜び歌う。主の御前で。¹³主は必ず来られる。地をさばくために来られる。主は 義をもって世界をその真実をもって諸国の民をさばかれる。ジョン・パイパーは彼の著書「Let the Nations be Glad (国々を喜ばそう)」の冒頭で、「宣教は教会の究極の目的ではなく、礼拝がそうである。宣教が存在するのは、礼拝が存在しないからである。」と述べています。私たちがYIBCの礼拝の中で行うすべてのことは、人々を礼拝へと招くために行われます。私たちは、人々に、その存在のすべてで神を崇めるように呼びかけているのです。もしあなたがクリスチャンなら、この礼拝は、あなたが他の信者たちと共に声と心を合わせて私たちの神を礼拝するためのものです。そして、もしあなたが信者でないなら、この礼拝は、あなたが神を崇めるようになるための呼びかけです。すべての被創造物は神を礼拝します。礼拝しないのは、被創造物の中では唯一、私たち人間です。ですから、私たちの礼拝を傍から見ているかもしれない皆さんに対して、私たち全員がいつか裁きのために、義であり聖なる神の前に立たなければならないという真実をお伝えしたいと思います。しかし、私たちの神は忠実な神であり、ヘブライ人への手紙7：25が語っているように、「²⁵したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。」私たちが罪から贖い、神自身の息子や娘としての本来の地位に回復させ、他のすべての被創造物と共に真の礼拝を捧げることが可能にしてくださった、その神の栄光を、私たちは宣べ伝えます。祈りましょう。

Psalm 96 Corporate Worship declares the glory of God

Today we are beginning a short summer series on corporate worship. We will be working our way through 6 different Psalms over the next 7 weeks, with a break for VBS. And in each of those Psalms we will see a different aspect of worship, and specifically think about why we do what we do in our gathered worship service each week. When I use the term corporate worship, I probably need to define it for some of you. I like the simple definition that 9Marks uses which says, **corporate worship is a congregation's act of praising God together through the forms and elements commanded and exemplified in Scripture.** Today, our first Psalm we want to look at is Psalm 96. Psalm 96 is one of the psalms that does not have a superscription that opens it telling us about the author or the purpose. It is simply a hymn of praise to God, which focuses on his glory. This is the perfect place to start any study on what it means to worship God as the gathered church. In fact in our church vision statement, we tried to make it clear that glorifying God is our first and highest priority of everything we are trying to accomplish at YIBC. **We exist to glorify God by prayerfully equipping followers of Christ through the Word of God to serve each other in loving unity regardless of language or culture and reproduce in new believers and new churches.** わたしたちは、言語や文化の如何にかかわらず、互いに愛をもって仕え合い、一致し、祈り心をもち、聖書をとおしてキリストの弟子を整えることにより、また、イエス・キリストを信じる者および新しい教会を生み出すことによって、神の栄光を現す教会として存在する。

Let's turn to Psalm 96 this morning and explore what it means to say that our worship declares the glory of God. Let's begin by reading verses 1-3.

Oh sing to the Lord a new song; sing to the Lord, all the earth! ² Sing to the Lord, bless his name; tell of his salvation from day to day. ³ Declare his glory among the nations, his marvelous works among all the peoples! It is not accidental or unimportant that a Psalm extolling the glory of God begins with singing. While singing is not the full extent of worship, and it is incorrect to call just the musical part of a service, worship, **we do use our voices in Corporate worship to his glory.** Notice that it's not just singing that is focused on here. The Holy Spirit through the Psalmist says, **Sing to the Lord**... but also **tell of his salvation**, and finally, **Declare his glory**... So this is more than singing as we use our voices. We use our voices in singing but we also use our voices to recite catechism that rehearses the truth of scripture and the gospel. In other words by that simple use of our voices, we are **telling of his salvation!** Rehearsing the gospel is a key part of declaring God's glory. The fact that God who created the universe, and created all humanity, planned from before time began to provide a savior who would save rebellious humanity from our sin is the primary reason that we as God's people have reason to give glory to God.

If you are joining us for this worship service today, and have not accepted Jesus Christ as your Lord and Savior, then we want you to hear every week in gathered worship the truth from the Word of God as seen in **Romans 3:23 that ...all have sinned and fall short of the glory of God**... We want you to know whether through the catechism, or songs or preaching that your sin brings you under the wrath of God as **John 3:36** makes clear. **36 Whoever believes in the Son has eternal life; whoever does not obey the Son shall not see life, but the wrath of God remains on him.** But we also want it to be clear that reason we gather to glorify God is that the gospel really is good news – that God loved us even while we were under his wrath and sent a Savior to provide salvation from that sin. **John 3:16** tells us **16 "For God so loved the world, that he gave his only Son, that**

whoever believes in him should not perish but have eternal life. But this message of salvation is not just for unbelievers. For those who gather here and make up the church, the Body of Christ, we need to be reminded of this message regularly, so we need to be “telling of his salvation.” When we are reminded of the love of God and the grace shown us through Jesus Christ, then we can have no other response than to worship God. Rehearsing the gospel deepens our appreciation of what God has done for us, and fuels our worship and glorifying God.

Of course, one of the primary ways we are to do that in our gathered worship is through singing. That is very clear from this passage. So our singing should be proclaiming the gospel – all the gospel. Our music should lead us to reflect not only on God’s love, but also our sinfulness, even God’s wrath towards sin. We should be singing songs that even help us to understand what Biblical themes like justification mean. Songs help us to commit those truths to memory in a way that even preaching is not as able to do. How many times do you have a song come to your mind that you have heard and sung in gathered worship that reminds you of a truth about God, something that encourages you, comforts you, perhaps even convicts you? Most people have far more songs committed to memory than verses of scriptures. So, how we do do music in the corporate worship setting can help us as a church to best incorporate the power of those songs into our everyday lives. Notice that this starts off with the words, **sing to the Lord a new song**... This does not mean that we should not be singing anything other than the latest worship hits. It means that the songs we sing should reflect music that we can sing in a relatable way that fits our time and culture. Now, that leaves a pretty wide scope of music. But there are songs that are hundreds of years old that are still very singable by today’s standards and have words that we can still understand, so they are still new in that sense. So, yes, we use music that is mixed between older and newer styles, but most importantly is singable by the average person. There are lots of songs, both Christian and non-Christian, including some intended to be worship songs that are basically unsingable by the average person, although we enjoy listening to them. That is the style of music we should avoid in worship. But that gets into a whole different sermon coming later, when we talk about how worship involves the entire congregation. But for now, when thinking about singing, in addition to proclaiming the gospel clearly and in a fresh way through scripture based lyrics, we also need to recognize that we need to be able to learn those songs. There are literally thousands of hymns and songs that have deep God honoring messages and lyrics that would faithfully point people to the Glory of God. But our minds can only remember a few of them. So, one of our goals should be to make sure that the worship songs we use get sung enough so you can actually learn them. If you haven’t realized it yet, we have a song list of roughly 120 songs that we rotate through, occasionally dropping one and adding another. I heard on a podcast, although I haven’t been able to confirm it from his own interviews, that Keith Getty, the author of hundreds of worship songs, said at his own church where he leads worship, he only has a rotation of 50 songs.

Of course when we think about singing that declares the glory of God, that also leads us to think of how we sing. The goal is exalting God not the ones leading in singing from the front. All of our musicians and singers are incredibly talented, but when they lead in worship you will notice they don’t put the focus on themselves and their ability. Mark Paisano could definitely play some guitar riffs that would amaze you with his talent and Migiwa and Maiko could blow you away with their talent on the piano and I could say

similar about all of our musicians; but they intentionally use their gifts in such a way that it helps the congregation focus on the words we are singing, not the musicians leading. If church music exalts human skill, it is not worship. And unfortunately that can show up in some songs by their association with a particular artist or church in such a way that it could detract from the glory of God. And if we place those churches or performers in a spotlight in worship and they are known for teaching that violates the very Word of God that we are supposed to proclaim in our worship of God, then we must reject them for corporate worship. I know that some of you are familiar with 2 or 3 of the very large and very well known musical companies from mega churches and have recognized that we do not use any of their songs in our worship. The reason is that while several of their songs may lead us to truly and passionately glorify God in worship, their association with the ministries behind those songs is so strong that it could be seen as acceptance of those ministries and agreement with their theology. I know that there are plenty of churches and pastors who disagree and even some of you may not agree, but Elders are to carefully guard the teaching of the church. If it hasn't been clear yet, songs and everything they represent provide a profound level of teaching in the church, so we must do everything we can to choose the best of those songs for use in corporate worship, that do not distract and take away from the glory of God in any way.

That was a long section on singing, although the main focus was on using our voices to worship God. But why should we use our voices in this way. It is commanded of course, but the Psalmist goes on in verses 4-6 to give us two incredible reasons why God is deserving of all the glory in our worship. **4For great is the Lord, and greatly to be praised; he is to be feared above all gods.**

⁵For all the gods of the peoples are worthless idols, but the Lord made the heavens.

⁶Splendor and majesty are before him; strength and beauty are in his sanctuary.

Everyone on this earth worships something. Even those who claim to be atheists worship something. In our culture, we see dramatic evidence of that with temples and shrines and statues that claim to embody the spiritual beings often referred to as gods. But there are other "gods" that are not so visible. There are gods of education and money and political power and sex and entertainment. So many things that people give their heart and lives in the service of. Those are all false gods. But what we need to realize first is that the God of the Bible is above all of these other things. He is great! We use this word pretty easily. That was a great game. That was a great meal. But God is truly great on scale that we are unable to comprehend in our human understanding. His greatness is so vast and superior to anything that would get our worship and attention here on earth for the simple reason that everything we see and experience only exists by his own creative acts. So the second aspect of why we glorify God above all is that he made the heavens. Why not say the earth? Because the heavens include the earth and the universe that we can explore, which is of course much more now than when these words were written. And yet everything we explore in the vastness of our universe simply sits before him like a canvas in front of an artist who has painted that painting exactly as he desired it to be. That is ultimate strength and when we see the world and universe around us, it should cause us to see that it displays his beauty alongside God's strength. That alone should drive our worship and bring us to glorify our God.

But not only do we use our voices in Corporate worship to his glory, but the Psalm writer goes on to describe how **giving is a part of our corporate worship in response to his glory.** Read verses 7-9. **⁷Ascribe to the Lord, O families of the peoples, ascribe to**

the Lord glory and strength! ⁸ Ascribe to the Lord the glory due his name; bring an offering, and come into his courts! ⁹ Worship the Lord in the splendor of holiness; tremble before him, all the earth! Now of course, we only see one clear reference to bring an offering, which of course is giving in worship the way we think of it. But this word ascribe also means to give. But there is a reason that the writer of this Psalm does not just say, “give.” This word by itself, would mean something like, “come on, come on.” So it’s a strong call to join by giving glory to God. “Come on, let’s give God glory and strength…let’s give God all the glory that he deserves!” And now part of that worship is to give offerings. Later in our study, we will be looking at Psalm 112 which focuses strongly on giving, but let me begin this series by pointing this fact out…that worship is tied to giving all throughout scripture. I think I probably downplay it too often because I don’t mention it enough. But part of our worship is giving of tithes and offering to God. And it’s not like the giving at a shrine where you throw a 100 yen or a 500 yen coin in seeking good fortune from the “gods.” We give from the blessings that he has provided for us in order to give back to him in worship and acknowledgment that all we have is due to his greatness and glory. We don’t come empty handed before the God of the universe. We come into his presence with offerings that declare by our actions as well as our words the worth of our God.

But finally this Psalm ends with words of warning. Now this would seem to be disconnected from the rest of the Psalm in certain ways. **But what this shows us is that evangelism, including warnings of God’s judgment, is part of declaring God’s glory.** Look at verses 10-13. ¹⁰ Say among the nation, “The Lord reigns! Yes, the world is established; it shall never be moved; he will judge the peoples with equity.” ¹¹ Let the heavens be glad, and let the earth rejoice; let the sea roar, and all that fills it; ¹² let the field exult, and everything in it! Then shall all the trees of the forest sing for joy ¹³ before the Lord, for he comes, for he comes to judge the earth. He will judge the world in righteousness, and the peoples in his faithfulness. John Piper opens his book “Let the Nations be Glad” by saying *Missions is not the ultimate goal of the church, worship is. Missions exists because worship doesn’t.* Everything we do in this worship service when we gather is to call people to worship. We call people to glorify God with every part of their being. If you are a Christian, then this service is all about you joining your voice and your hearts together with fellow believers in worship of our God. And if you are not a believer, then this worship service is a call for you to become a worshipper. All creation worships God. The only part of creation that fails in its worship is us. And so, our call to you who may be onlookers of our worship is to say that there is a righteous and holy God who we will all stand before in judgment one day. But our God is a faithful God sent his very son, Jesus Christ who “is able to save to the uttermost those who draw near to God through him, since he always lives to make intercession for them,” as Hebrews 7:25 tells us. We declare the glory of that God who is able to redeem you from sin and restore you to your intended position as a son or daughter of God himself and a true worshipper with the rest of his creation. Let’s pray.